



させぼ夢大学

発行●公益社団法人 させぼ夢大学
編集委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
https://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.330 (2023・10)

令和5年度
第7回

2023年 10月19日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

開場 17:30

夢のひろば 18:00

講演 18:30 (終了20:00)

第7回講演会の講師は、テレビ番組「笑点」の大喜利で大活躍の三遊亭好楽さんです。

好楽さんは、1946年、東京生まれ。6歳の時、父親が急逝し、男5人、女3人の8人兄弟を母親が一人で支えてきました。家事一切を済ませ、子どもを寝かせつけた後、ラジオで落語を聞いていた母親の姿を見て、上から6番目の好楽さんは、母親を喜ばせたい一心で、落語に興味をもつようになりました。

その後、好楽さんは、八代目林家正蔵の古典落語「鯉沢(かじかざわ)」を聞き、落語の世界への入門を決意。1966年、正蔵の自宅へ通うこと4日目にして、ようやく弟子入りを許され、林家九蔵を名乗ります。



1971年、ニツ目昇進。1981年、真打昇進。同時期、「笑点」の大喜利のメンバーに選ばれます。1983年、師匠の死去により、三遊亭円楽一門に移り、三遊亭好楽に改名。心機一転、出直しを図るため、「笑点」を降板し、独演会や一門会で古典落語をみっちり修行しました。

1988年からは「笑点」に復帰し、現在もレギュラーで出演中です。

噺家の中で、好楽さんの悪口を言う人は、一人もいないというほどの好人物。その好楽さんから、今回は「人生好んで楽しもう」というテーマで、ご講演していただきます。

私たちは、これからの人生をどう好んで楽しむか、好楽さんのお話からヒントをいただきたいと思います。

さんゆうてい こうらく
講師 ● 落語家 **三遊亭 好楽氏**

テーマ ● **人生好んで楽しもう**



次回のご案内

■と き / **11月16日(木)** 18:30~20:00

■講 師 / 歌手 声楽家
ゆき やすだ さちこ
由紀さおり氏・安田祥子氏

■由紀さおり・安田祥子 童謡コンサート2023

●姉 安田祥子、妹 由紀さおりは子どものころひばり児童合唱団に所属し、童謡歌手として活躍。その後クラシック界、芸能界へとそれぞれの道へ。1986年より姉妹で童謡コンサートをスタート。先人の残した日本の歌を子どもたちに手渡したいという思いで、活動を続け2023年に37年目を迎える。現在、「由紀さおり・安田祥子 with 木山裕策 童謡コンサート~家族のハーモニーII~」を各地で開催。

10月の講演会は第3木曜日です。

三遊亭 好楽 氏のプロフィール

●東京都出身。故・林家正蔵に入門。1981年真打昇進し、日本テレビ「笑点」大喜利メンバーとなる。83年正蔵の死去により、三遊亭円楽一門に移籍し、「三遊亭好楽」に改名。心機一転、出直しをはかるため、「笑点」を降板したが、独演会や一門会で古典落語をみっちり修行し、88年再び「笑点」に復帰。現在もレギュラーとして活躍中。





元谷芙美子 氏



■今回、アパホテル社長 元谷芙美子さんの講演ということで、どんな話をされるのか楽しみにしていました。想像していたのと違い(硬いお話をされるのかと思いきや)、ジョークを交えてのざっくばらんなお話で楽しい時間でした。元谷さんが歩いてこられた道程、夫婦の絆など、謙遜して語られるのは、とても好感がもてました。
 最後には、ご自身の歌も披露され、多才な面もおもちで、盛り沢山。パワーをいただいた有意義な時間でした。

東彼杵郡川棚町●福田 慶子

■あふれるようなパワーで、自分史を丁寧なきれいな言葉で語られた元谷さん。ゼロから事業を始め、今の自分があること、そしてご主人を大事にしてもらえることがよくわかりました。
 今回の講演会は、昼の時間帯でしたが、講演時間をもう少し早めにしていただけたら、「させぼ夢大学」をもっと続けていきたいと思う人がいるのではないかと思います。

佐世保市大宮町●田中 美福

■帽子をかぶり出て来られた元谷氏。ご主人とけんかしたことがないとは、びっくりです。一歩下がって、二人で一流ホテルにされ、大学にも行かれ、会社も借金過多でないとは。
 我々世代に元気を与えてくれる、素敵な女性です。

佐世保市木風町●西 照美

■テレビでは何度か見てはいましたが、ステージの社長は、普通の社長とは比べ物にならないくらい堂々としていて、すごいなと思いました。住宅ローンに携われたお話や、幼少期にご苦労された話など聞き応えがあり、何より「夢はいらない」と一喝されたことが、最も心に残りました。
 私も社長が言われた布石が大事だと、本当に思います。勉強になりました。

佐世保市小島町●高増 香里

■今日は、久々のお昼の講演会でした。講師の明るくニコニコと語ってくださる姿勢から、パワフルな毎日の活動が伝わってきて、大変楽しかったです。
 「夢」という言葉が嫌いだと言われましたが、「夢」があるから運も味方にできるのではと考えさせられました。

佐世保市赤崎町●木村 典子

■今日は、楽しい「敬老の日」でした。帽子のイメージが強かったのですが、お話を聞くと、しっかりした信念をもたれた方で、とても素敵でした。

佐世保市藤原町●森 順子

経営者の鑑

西松浦郡有田町 庄村 雅子

すばらしい講演を聞き、感動しました。優れた商才を充分に發揮し、大企業を目指してこられたのは、お客様を幸せにする、勝機をつかむ、思い立ったら吉日など、相手の立場に立った思いやりがあり、成功されたと感じます。周りに多くの経営者がおられますが、決算期はいかに税金を払わないようにするかという話を聞きます。しかし、事業を通じて少しでも多くの利益を上げ、税金を多く払うようにしているの聞き、世間の事業主の方々にも今回の講演をぜひ聞いてほしいと思いました。

コロナが流行り始め、アパホテルが貸し出しをされたら聞き、大丈夫かと心配していましたが、「災い転じて福

となす」の諺どおりになったようです。これからもご夫婦で石川県の高額納税番付1位を守っていただきたいと願っています。元谷ご夫婦こそが、商人の鑑です。

今回も、すばらしい講演、ありがとうございます。感激、感動、そして明日への活力をいただきました。

愛のあるエール

北松浦郡佐々町 法本 安子

「私が社長です。」というキャッチコピーで、一躍有名になったアパホテルの社長、元谷芙美子さん。さて、今回の講演で、どんなお話が飛び出すか興味津々でした。

福井県に生まれた小さな女の子が、社長になり、ホテル事業で成功し、今の自分があ

ることへの感謝の気持ち。そして、「人間万事塞翁が馬」の諺にならない、ピンチこそチャンスと捉える最強のポジティブ思考。ただの広告塔ではない、すばらしい社長です。

日本中がコロナのパンデミックに大打撃を受けている中、ホテル業界のリーダーとして、コロナ患者を受け入れ、医療の崩壊を防ぐという行動には、敬服いたします。「ピンチをチャンスに、強運をつかみ取る。」

このエネルギーシユさ、またご主人へのリスペクト、古風な女らしさとも言える旦那様を立て敬う姿勢にも感服。明るく楽しく元気になる講演会でした。

今回のコロナ禍というピンチも、今後は少しくなるという、マインドリセットをも

つだけで、この危機に対する捉え方は、変わってくるのではないのでしょうか。

元谷さん、愛のあるエールをありがとうございます。「学ぶこと、まだある老いの好奇心」

全国アパホテルの旅を夢見て

佐世保市大和町 新北 博美

白い大きなリボンのついた素敵な帽子。張りのある声。テレビ等で「私が社長です。」と全面に出られる姿や、お顔のアップの大きな看板が印象的な元谷さん。講演中のおとも丁寧な言葉遣いに、気品を見ました。

アパホテルを、ご夫婦でゼロから大きく育てられたのは、並大抵の努力ではなかったであろうことは、想像に難くあ

夢のひろば

◆日時／10月19日(木) 午後6時～6時20分

◆演目／JAZZ演奏

◆出演／みお&福田将之 JAZZ DUO

◆出演者紹介

みお (ジャズピアニスト)

佐世保市在住。ジャズの演奏をはじめ、後進育成、楽曲提供など、幅広く活動中。TV番組「キラッ都させば」テーマ曲を担当。アルカスSASEBO音楽アウトリーチ事業「演奏家がやってくる」第3期生。現在、佐世保市文化振興委員。

福田将之 (ジャズベーシスト)

佐世保市在住。長崎大学Swing Boat Jazz Orchestra出身。現在、九州各地のイベント、ライブで引っ張りだこの実力派ベーシスト。

◆曲目

1. But Not For Me (ジャズスタンダード曲)
2. キラキラ星 ～Jazzアレンジ～
3. 天の川 (みおオリジナル曲)

ピンチをチャンスに！ 強運をつかみ取る。

りません。「運がよかった」と何度とも言われていましたが、迎え撃つてつかむ、勝ち取った「運」という言葉に力強さがありました。何のために事業をするのか。日本の国のため。一円でも多くの税金を払うため。何てすごい考え、信念。来たるべき災いに對しても、動じることなく、前もって心づもりをしていたとは、先見の明。コロナ禍の中でも、患者さんを率先して受け入れて乗り越えて、そういう先に納められた税金。日本中の皆それぞれが、働いて納めている税金。大切に有意義に使ってほしいと切に思いました。

全国のアパホテルに宿泊しながら、日本中を旅してみたいと夢を見えています。

乙女みたいな元谷さん

佐世保市黒髪町 大山 俊子

「夢のひろば」の村島さんの歌声、富永さんのピアノ。2人の息の合った音楽は、私の心に届きました。母親(おばあちゃん)みたいな心境で、ドキドキしながらうっとり聴いていました。佐世保の方です。元谷さんが、ご主人の話を話される時の表情は、何か乙女みたいな感じになっていました。口げんかばかりの我が家と違って、「けんかしたことがない」ということが、信じられません。私も主人をリスベクトし、口げんかの数を少しでも減らそうと思っています。

講演を聴かれた感想をお待ちしています！

※締め切りは10月25日(水)(必着)
※宛先は、させぼ夢大学事務局まで

この講演会を聞き、元谷さんのイメージが変わりました。何か怖そうな感じをもっていました。話を聞くうちに親近感を抱くようになりました。何より、考え方が前向き。私のこれからの人生にも、生かしていきたいことがたくさんありました。

今度、元谷さんのCDを買ってみようと思います。元谷さんの歌声を私への励ましと感しながら、毎日楽しく元気がいっぱい生きていきたいと考えています。

アパホテルのジャンヌ・ダルクは、今も健在！

佐世保市ウステンボル 松井 昭夫

「アパホテル」と耳にすれば、元谷社長の華やかな帽子姿の

笑顔がパツと思いつく。「充電しながら走れちゃう」と公言して憚らない。そのパワーの原動力はどこからくるのか？ 大いに関心があった。

自身の誕生から名前の由来、福井大地震、大学進学断念、帽子の話、夫との出会いや社長になってからの大学・大学院進学と話題は驚くことばかりだ。

「運」は待っていてはダメ。自分から進んでつかむこと。迎え撃つて勝ち取るもの」と、パワフルかつポジティブである。

今回の講演の中でさらに驚いたことは、コロナ対策についてであった。コロナ禍にあつてホテル業界の多くが赤字に陥っているにもかかわらず、アパグループは黒字。今も拡大路線を歩き続けている。政府からの意向打診を受け、いち早くコロナの無症状者や軽症者の受け入れを表明し、実践に移した。

アパグループ創業者元谷代表は「ホテル業にとって一番恐ろしいのはパンデミックだ」と常々語り、前もって対策を考えていた。だから、即断即決ができ、社員もすでに心構えができており、「ついに来たか！」と取り組めたのだという。代表や社長の洞察力、先見力が見事に表れている。

改めて、今回の講演とアパホテルの取り組み方を見つめると、時流に乗ったビジネス

を展開していることがよくわかる。独創性や哲学をもって動くことの大切さを学んだ「敬老の日」となった。

幾多の試練を乗り越えて

佐世保市鹿町 肥後屋 千鶴

壇上に登場された元谷さんを見て、小柄ながら、声に迫力があるなあと感じました。昼時でもあるし、眠たくないのでお話を聞きました。ところが、話されたら、ぐんぐん引き込まれて、あつという間の時間でした。

「人間万事塞翁が馬」少し難しい言葉と思いますが、新聞などで何度か聞き覚えがありました。人生は、何が幸いするかわからないというものでしょう。

長い人生では、幾多の試練があります。私も、10年前に交通事故に遭いました。車椅子生活を強いられるかも！でも、お陰でリハビリは大変でしたが、普通に歩けるようになりました。その時、努力して頑張ることを学びました。つい3ヶ月前にも、突然の手術を受けましたが、無事済み術後の治療もありませんでした。講演会に3ヶ月ぶりに来ることができました。今回の元谷さんの講演から、元気をいただき、頑張る毎日を楽しく、精一杯過ごしていきたいです。



9月夢のひろば 村島佳佑「あなたの今日に、はなうたを。」

九十九島

ふもやま話

7

民話・一里島

しはた 柴田 昭隆

九十九島の名称の謂(いわ)れについて『一里島』という民話がある。

もともと九十九島の島数は一〇〇島だった。しかも、島々は夜から明け方までの間は自由に動き回ることが出来た。ある夜のこと、一〇〇島は大挙して夜の佐世保へ繰り出した。酒を飲み、歌や踊りに夢中のうちに夜明けが近くなり、急いで九十九島湾へ帰ったが、一島が酔いつぶれて佐世保湾で寝ているうちに夜が明けてしまった。それが佐世保湾の真ん中にある一里島で、一〇〇島だった島々は九十九島と呼ばれるようになった。

民話は、土地の伝説や言い伝えが修飾されて現在まで伝わっているものが多いのだが、『一里島』の民話はいつ頃作られたのだろうか。

江戸時代の佐世保は山が海に迫り農地が少ない寒村であった。ところが、明治時代に軍港となったことで人口は爆発的に増加した。町は一挙に発展し、陸路・海路とも賑わったのだが、佐世保湾は軍港であったため湾内の航行は海軍優先であった。

商船や一般船舶が佐世保湾から締め出されていく中で、海路の目印であった一里島は、民話の主人公とするほど親しみの持てる島ではなかった。そのイメージは、太平洋戦争終結まで続いた。このことから『一里島』の民話は、昭和二十年以降の時代に創作されたものと思う。

『一里島』の筋書きによく似た北原白秋の作品がある。それは、一九二二年(大正一〇)五月初版の白秋の第二童謡集『兎の電報』に収められた「九十九島」という童謡(数え唄)である。紙面がないので、あらましを言う。

「大島小島が九十九と一人、お酒のみましょ、酒宴(さかもり)しましょ。そこで一人が酒買いにやられた、海上はるばる長崎へまいった。その子酒ずき、酒屋は出たが、ね、ついと、とろんと、みな飲んでしもうた。

お目がさめたら早や夜が明けて、よ、泣くや泣かれず、戻ろにや遅いし。こいつしまった、面目ないでござる、とうとう港にちょんぼりと留った。九十九島は平戸の瀬戸よ、ね、一人長崎、それが高島よ。」

佐世保港内を航行するには鎮守府の許可が必要だったので面倒な手続きを避けてはるばる長崎まで酒買いに出かけたという。

白秋は、「五足の靴」の一行と共に明治四十年に佐世保を訪れて翌日平戸へ向かった。「九十九島は平戸の瀬戸よ、ね」と詠われているように、平戸行の汽船から白秋が見たのは、北九十九島の島々であった。

『一里島』の民話は、白秋の童謡を下敷きにしてできたのかもしれない。



佐世保湾に浮かぶ一里島(写真中央の小島)

事務局だより

★元谷美美子さん、ありがとうございました。

「夢はいらないー」
元谷さんの口から出たこの言葉は、させば夢大学にとって、何とも衝撃的なものでした。

確かに、「夢」とは、きれいな言葉であるものの、先の見えない遠い存在に感じられます。前向きな考えの元谷さんにとっては、現実的な戦略をとることが大事であり、「夢」で終わらせてはいけません。という戒めの言葉であったと思います。

だからこそ、常に笑顔で明るく、元気な姿を保ち続けておられるのであり、自ら運を引き寄せているのではないでしょう。か。

また、発売しているCDの曲を、ノリノリで歌唱され、終始和やかな雰囲気での講演会となりました。

「大学にパワーをー」
最後には、させば夢大学にエールまでいただきました。ピンチをチャンスに変え、力強く生き抜いてこられた元谷さん。人生訓となる数々のお話、ありがとうございました。

★佐世保市生まれ、在住の村島さん。応援します！
「夢のひろば」に2回目出演の村島佳佑さん。その歌声

は、語りかけるように澄んでいます。静かに聴いていると、心に沁み入るいい曲ばかり。歌詞の一つ一つが、丁寧に作られています。

また、ピアノの富永隆治さんの伴奏は、タッチが軽やかで柔らかく、村島さんの声を引き立てていました。

お二人、本当にありがとうございました。

来年6月2日のアルカスSASEBO大ホールでの成功を心からお祈りします。

★講演会前の季節の風物詩の写真を、お楽しみに！

講演会当日、大ホールの開場後、講師の紹介や注意事項のスライドを、ステージのスクリーンに映し出しています。皆様ご覧いただいています。ぜひご覧ください。

その中に、生き物や風景等の季節の写真が8枚ほど含まれていることは、ご存じのことと思います。

これらの写真は、させば夢大学のスタッフの一人、小川清仁委員の写真提供によるものです。写真は、自分のものもあれば、奥様のもの、ご友人のものも含まれ、受講生の心を和ませるよう、講演会ごとに写真を変え、工夫をされています。

今後の講演会の際には、小川委員提供の写真も楽しみ方の一つとして、ご来場いただければ幸いです。